

学生による成人看護学慢性期・終末期の実習指導評価

藤堂 由里, 近藤栄律子, 影本 妙子,
濱松 恵子, 中西 啓子

Students, Evaluation of Practical Adult Nursing Program at Chronic and Terminal Stages

Yuri TOUDOU, Eriko KONDOU, Taeko KAGEMOTO,
Keiko HAMAMATSU and Keiko NAKANISHI

キーワード：ECTB, 実習指導評価, 教員, 看護学生

概 要

43項目からなる Effective Clinical Teaching Behaviors (以下 ECTB という) 評価スケールを用いて経年的に学生による看護師 (以下指導者という) の実習指導の評価を調査している。実習指導では臨床と学校の連携が重要であり, 学生の特性に合わせた指導方法の工夫も求められていることが今までの研究¹⁻⁵⁾で明らかになっている。学生による指導者の ECTB 得点が低下を示したため, 看護教員 (以下教員という) の ECTB による実習指導の評価を調査した。分析の結果, 指導者の ECTB 平均得点は3.61, 教員の平均得点は3.67で殆どの項目で有意差は認められなかった。指導者と教員が効果的な実習となるような指導について, 相互に補完的役割がとれているのか, 学生が教員の実習指導に何を求めているのか, 教員の指導に関する感想や要望調査を行った。実習指導に対する示唆が得られたので報告する。

- ① 学生による『実践的な指導』の評価得点は, 指導者の評価の平均得点が教員より0.61高く, ECTB の質問項目のうち No.16, 31に有意差を認めた。『理論的な指導』, 『学生への理解』, 『学習意欲への刺激』の評価の平均得点はどれも教員の方が僅かながら上回っていた。
- ② 学生による教員の指導に関する感想・要望の調査より, 教員の指導を肯定的に受け止めていた。
- ③ 学生による『学生への理解』の評価得点は, 指導者, 教員共にNo.10, 11, 39の項目で低くなっており, 学生が実習に対し不安や緊張を感じている。学習指導の際には指導方法の統一, 学生がリラックスできる配慮やうまくやれた時には褒めて看護ケア, 技術の経験ができ達成感が得られるための指導者・教員の支援が重要である。

1. 緒 言

看護教育の中で臨地実習は, 学生が今まで学内で学んだ知識, 技術, 態度を患者に適応し, 実践を通して患者にとって安全, 安楽な看護技術の提供と患者に必要な看護に気付くために不可欠の過程である。教員は学生が実習での体験を振り返り, 看護の意味や患者の個別性を配慮した対応の必要性を理解できるよう指導している。

これまで ECTB 評価スケールを用いて継続して指

導者の実習指導に対する学生の評価の調査・分析を行った¹⁻⁵⁾。ECTB の得点は, 4.0の「だいたいそうである」が通常普通の評価といわれており, 指導者の臨地実習指導評価の得点は2008年に3.80に上昇したが, 2010年には3.61に低下した。今回学生による教員の実習指導評価について調査し, 実習中に学生が教員に求める指導を理解し, 指導者との連携の工夫について分析することが重要と考えた。学生に成人看護学の慢性期, 終末期の実習指導者と教員について ECTB を用いた実習指導評価の調査を行った。さらに学生の教員の実習指導に関する感想・要望を調査・分析した。教員による実習指導改善のいくつかの示唆を得たので報告する。

(平成23年10月19日受理)

川崎医療短期大学 看護科

Department of Nursing, Kawasaki College of Allied Health Professions

2. 研究方法

1) 調査対象

A看護系短期大学3年次生118名

2) データ収集期間

(1) 指導者についてのECTBを用いた実習指導評価は、2010年に行った領域別実習のグループ毎に3週間の実習期間終了日に実施した。

(2) 教員についてのECTBを用いた実習指導評価は領域別実習が全て終了した2010年10月の実習のまとめの時間に実施し、教員の指導に関する感想、要望調査も同時に行った。

3) データ収集方法及び分析方法

日本語版ECTBの実習指導評価について調査用紙を配布し、回収箱に投函してもらい、指導者と教員の平均点の比較を行った。分析にはSPSS14.0を使用し、t検定を行い、有意水準は5%未満とした。

学生による教員の实習指導に関する感想・要望の調査については、自由に記述してもらい回収した。その内容を、一文章一意味として類似したもので分類・整理してカテゴリー化し分析した。

4) 倫理的配慮

学生に研究の目的と調査したデータは、個人が特定されないよう匿名で処理し本研究以外では使用しないこと、学業成績への影響は一切ないこと、参加は自由意志であることを口頭で説明し、研究協力への承諾を得た。

3. 結果

1) 指導者 (A群), 教員 (B群) のECTBによる実習指導評価の平均点の比較

指導者については、85名(有効回答73.0%)、教員については、98名(有効回答87.3%)が得られ分析対象とした。ECTB評価スケールを用いた43項目の指導者と教員の実習指導評価の平均点と有意差の有無を表1に、カテゴリー毎の平均点の比較を図1に示す。

2) 学生から教員の指導に関する感想・要望調査の自由記述

分析可能な記述総数は139件で92名を分析対象とし、5人以上が要望する内容を取り上げ6カテゴリーに分類した。結果を表2に示す。

表1 指導者と教員のECTB評価得点の比較

Q	項目	A群 (N = 85)	B群 (N = 98)	t 値
		MEAN ± SD	MEAN ± SD	
実践的な指導	2 ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認してくれていますか?	3.59±0.822	3.49±0.874	-0.397
	12 専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか?	3.79±0.863	3.67±1.048	0.687
	16 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか?	3.91±0.856	3.50±0.778	0.449**
	21 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれていますか?	3.58±0.965	3.62±0.919	-1.373
	25 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行っていますか?	3.68±0.774	3.67±0.891	-1.337
31 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか?	3.67±0.897	3.33±0.942	-0.360*	
理論的な指導	5 学生に対し客観的な判断をしてきていますか?	3.82±0.852	3.99±1.035	1.299
	6 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけてくれていますか?	3.71±0.926	3.76±0.904	-0.826
	7 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけてくれていますか?	3.85±0.771	3.66±1.166	-1.160
	14 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援してくれていますか?	3.74±1.022	3.65±1.093	-1.380
	19 より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか?	3.04±1.042	3.34±1.135	-1.749
20 学生に事例を評価しながら考えてみるように言っていますか?	3.25±0.860	3.56±1.003	0.824*	
24 記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか?	4.00±0.874	3.62±0.894	-1.170**	
学習意欲への刺激	8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか?	3.69±0.804	3.81±0.985	0.656
	15 学生が「看護は興味深い」と思えるような姿勢で仕事していますか?	3.66±0.933	3.48±1.133	1.157
	18 学生が実施してよい範囲・事例を、実習の過程に応じて明確に示してくれていますか?	3.39±0.895	3.58±1.160	2.620
	23 学生がより高いレベルに到達できるように対応してくれていますか?	3.58±1.029	3.63±1.145	-1.122
	27 学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか?	3.56±0.914	3.78±0.930	-1.414
	30 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけてくれていますか?	3.37±1.085	3.61±0.984	-1.971
	33 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしてくれていますか?	3.55±0.937	3.74±0.975	-2.214
	35 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけてくれていますか?	3.47±0.792	3.65±0.891	-0.366
	37 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助してくれていますか?	3.49±0.891	3.63±0.928	0.083
	38 学生に良い刺激となるような話題を投げかけてくれていますか?	3.50±0.864	3.59±1.019	-0.399
41 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけてくれていますか?	3.48±0.690	3.71±1.117	2.701	
42 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示してくれていますか?	3.68±0.805	3.86±1.003	0.065	
43 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助してくれていますか?	3.60±0.862	3.76±1.125	-0.218	
学生への理解	4 学生に対し(裏表なく)率直ですか?	3.79±0.892	3.98±0.925	-1.563
	9 学生に対し思いやりのある姿勢でかわって来ていますか?	3.62±0.778	3.80±0.984	-0.051
	10 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えて来ていますか?	3.36±0.864	3.58±0.896	-0.509
	11 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにして来ていますか?	3.09±0.902	3.38±0.959	-1.752
	13 学生同士で自由な討論ができるようにしてくれていますか?	3.61±0.864	3.77±1.043	2.407
	17 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか?	3.55±0.784	3.73±1.029	1.834
	22 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか?	3.78±0.945	3.77±0.923	-1.388
	26 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしてくれていますか?	3.60±0.742	3.63±1.051	0.048
	28 物事に対して柔軟に対応してくれていますか?	3.56±0.749	3.57±0.954	-1.423
	34 学生の言うことを受け止めて来ていますか?	3.74±0.901	3.73±1.036	-0.991
39 指導の方法は統一していますか?	3.14±0.895	3.30±0.946	-1.013	
40 学生に対し忍耐強い態度で接してくれていますか?	3.38±0.925	3.66±1.054	-0.620	
要素外の項目	1 学生に実習する上での情報を提供してくれていますか?	3.78±1.020	3.83±1.160	-0.938
	3 グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてくれていますか?	3.87±0.904	3.82±1.112	-1.859
	29 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしてくれていますか?	3.73±0.796	3.80±1.065	-1.648
	32 患者と良い人間関係をとっていますか?	4.20±0.862	3.95±0.995	-1.260
36 担当教員と良い人間関係を保っていますか?	3.61±0.848	3.76±0.897	-1.196	
合計		3.61±0.877	3.67±1.002	

*: P < 0.05 **: P < 0.01

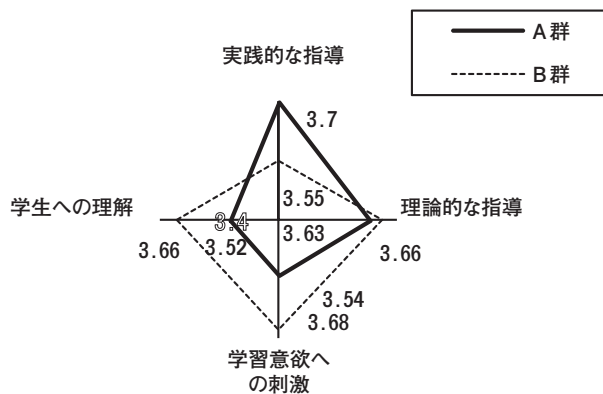


図1 カテゴリー毎の平均点の比較

表2 教員の指導に関する感想・要望調査の自由記述

n = 92

カテゴリー	代表的なデータ
助言してくれる (29)	丁寧にわかりやすく的確にわかるまで教えてくれた(14) 助言により勉強すべき内容が広がり答えをみつけられた(5) 先生が「私だったらこうする」と意見交換してくれた(4) 親身に話を聞いて、アドバイスをくれた(4) 気持ちが楽になる助言をもらった(2)
気にかけてくれる (23)	常に学生の事を気にかけて理解してくれた(10) 学生の気持ちに共感し、一緒に考えてくれた(8) 質問しやすい雰囲気ですぐに相談できた(5)
記録の指導 (23)	記録を毎日みてくれた(12) 関連図や総括等レポート類を細かくみてくれた(6) 記録の不足部分を指導してくれた(5)
看護技術の指導 (16)	一緒にケアをする等患者と関わり、アドバイスがほしい(10) 看護師との連携をとってくれケアや処置にスムーズに入れた(4) 患者との場面でリラックスできるように環境づくりをしてくれた(2)
考えさせてくれる (13)	自分で答えを出せるよう導いてくれた(5) 一緒に振りかえり、理解できていない事に気づけた(4) 情報を関連づけて理解できた(4)
病態理解の指導 (9)	疾患に目を向け様々な角度からアセスメントする指導をもらった(6) 関連図や診断に至る過程等の指導により病態を関連づけられた(3)

4. 考 察

1) ECTB のカテゴリー毎の指導者、教員の実習指導評価

『実践的な指導』のカテゴリーの平均得点は指導者3.70に対し、教員3.55と指導者の得点が高く、患者の看護の実践については指導者が優位であった。しかし『実践的な指導』の中でNo.21「理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれますか?」についての得点は教員が3.62であり指導者の3.58より高く、教員が患者の看護ケアにも参加し病態を含めた看護の指導を学生が肯定的に受け止めていることがわかる。天ヶ瀬ら⁶⁾は、教員は学生の行動と学習状況を把握し、教育的配慮に

焦点を当てて指導を行い、実習指導者は患者のケアに責任を持ち、医療安全を遵守する立場で学生指導を行っており、それぞれの異なる立場と責任を持っていると述べている。学生が臨地で看護の経験を重ねるためには、患者の病態、治療、症状やその変化についての根拠を知っている指導者が実践を行うことが重要で、患者の看護に責任をもつ指導者の役割は大きい。実習病院は指導者の経験年数が少なく、指導者は業務も併せて行っているため、教員も可能なら学生と一緒に患者のケアに参加している。そして教員は、学生が患者の看護を経験できるよう指導者にも働きかけケア実践の機会がもてるよう調整を行っている。教員は学生が経験した場面を共有し、状況に合わせて行ったことや感じたこと、看護の裏付けや意味を見付けられるよう働きかけている。

『理論的な指導』のカテゴリーについては、指導者に対し、教員の得点はNo.7は3.66、No.14は3.65、No.24は3.62と低く、その中でもNo.24の「記録物の内容について適切なアドバイスをくれていますか?」は有意に低かった。学生は指導者から看護計画用紙については、実習当日患者の看護計画発表時に患者の状態に合わせた看護計画になっているかアドバイスをもらう。毎日の記録については、実習終了後にその日の看護記録の観察、ケア、考察や治療について表現の記載方法の指導を受けている。指導者から毎日指導を受ける看護計画やその日の記録は学生にとって印象深く、学生は、次の日の患者の看護に活かそうと、意識的に指導を受けているためと考える。一方、教員は一般的な病気の知識から患者の状態、治療の情報を抽出し統合させて看護を創造する思考力に焦点を当てているため学生にとっては難しくタイムリーに記録指導を受けることが難しい。しかし、No.20の「学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか?」の得点は、教員が3.56、指導者が3.25であり教員の得点が有意に高くなっていることから、教員の病態を関連付けた指導により学生の理解が深まっているといえる。実習病院の勤務体制で、経験年数が少ない指導者の場合は、学生が体験した患者の看護場面から根拠となる症状、病態、治療の関連について説明をする余裕がないことが多い。そのため学生は、経験した場面で自分の見た範囲でしか考えられていないことが多く、その場の状況や患者・家族の思いや背景を理解して看護することが難しい傾向にある。患者や指導者から直接言葉で言われない部分の感情や状況に配慮するのは難しい。慢

性期・終末期の患者は長い経過をたどることが多く患者・家族への心理的・社会的な配慮も重要で看護を受け入れてもらえるように教員は、指導者と連携をはかり発達段階、危機理論、適応理論を活用してサポートし、学生の看護の学びを深める必要がある。

『学習意欲への刺激』のカテゴリーについては、4つのカテゴリーの中で有意差のみられる項目はなかったが指導者についてはNo.15の「学生が興味深いと思えるような姿勢で仕事していますか？」の得点が3.66であり、指導者の『学習意欲への刺激』の平均得点である3.54より高かった。慢性期看護の目標は、患者が病気と共に生活する自分なりの方法を見付けられるように患者の生活や人生の質の向上を目指して援助することである。そのため指導者が患者の社会背景、生活背景、心理状態などを把握した上で看護を実践している場面を、学生は目の当たりにし、よい看護モデルとして指導者を認識している。生活体験の乏しい学生にとっては患者の生活像や社会像をイメージすることは難しく、現実の患者に結び付けることは更に困難であることから学生は指導者の看護は興味深く、よい看護モデルとなっている。安酸⁷⁾は、できるだけ学生が経験した事実や気づいた現象を素材として教材化したいと考えると述べているように、教員は学生が経験した場面を通して実施した看護の意味を学べるよう声かけが必要である。加えて、学生の反応や理解状況を確認しながら学習進度に合わせ助言や指導を行っている。学生が看護を展開できるように教員はよい刺激となるような発問、学生の理解を促すような質問、グループメンバーで意見交換できるような働きかけを個人やグループに対して行うことが必要である。指導者が1, 2年目の看護師の場合、学生が新しい状況や理解できない状況に遭遇した時には、学生に考えさせるのではなく答えを示して指導している傾向がある。学生自身が自分で看護の根拠から具体的な看護・ケアの必要性と方法を見付けられるようにするため、教員は課題を提示して学生に学習させ理解を促し学習意欲を刺激する必要がある。

『学生への理解』のカテゴリーについては、有意差のみられる項目はなかった。No.4の「学生に対し(裏表なく)率直ですか？」の項目では指導者の得点は3.79、教員の得点は3.98、No.9の「学生に対し思いやりのある姿勢でかかわって来ていますか？」の項目では指導者の得点は3.62、教員の得点は3.80と共に低く、学生は、指導者の対応を半分以上は肯定的に受け

止めている。しかし、No.11の「学生が緊張しているときには、リラックスさせるようにして来ていますか？」の項目では指導者の得点は3.09、教員の得点も3.38で共に低かった。指導者は忙しい病棟業務の中で学生の反応を感じていてもそれへの対処をする余裕がない。村山⁸⁾が述べているように、慌ただしい現場や人との関わりの中で緊張を強いられ、持っている実力を十分発揮できないこともあるため、教員は学生をリラックスさせるような声かけや雰囲気をつくり、緊張がとれるようサポートしていくことが必要である。No.40の「学生に対し忍耐強い態度で接して来ていますか？」の項目では教員の得点は3.66と指導者の得点の3.38より高く、学生は半分以上の場合教員が理解できるまで丁寧に時間をかけて指導してもらえていると感じている。学生が臨床の事例を理解して関わるのは容易ではない。不足している情報に気付く投げかけや、事象を関連付け理解するためのきっかけを与えることで、学生の思考を深めることに繋がる。

2) 学生による教員の指導に関する感想・要望の調査
記述内容は、表2に示すように6のカテゴリーと19のサブカテゴリーに分類した。(以下、『 』はカテゴリー、「 」は代表的なデータを示す)

『助言してくれる』の中で、「丁寧にわかりやすく的確にわかるまで教えてくれた」の意見が14件と最も多く、学生は理解したいという気持ちを強く持っている事が窺える。レバドトニエら⁹⁾は、教師は、学生に対し支持を与えると同時に、学生が自由に自分の能力や考えを試すことができるようにしなければならないと述べている。学生は、自分の考えや感じた事に自信がないことが多く、自分の考えが教員や指導者の意見と違くと自分の意見は間違っているのではないかという不安を強く持つ。教員は学生の思いや悩みに耳を傾け、学生の気持ちに沿った助言を行う事が重要で、理解出来れば自信に繋がり自己効力が高まる。

『記録の指導』では、23人の学生が指導してもらったと感じており、そのうち「記録を毎日見てくれた」が12件あり過半数を示した。学生は病態や治療を関連・統合させる看護の展開を苦手としており、記録に多くの時間とエネルギーを費やしている。中西は¹⁰⁾実習記録は、その内容はどうあれ学生の努力の産物であって、学生が無意識のうちに主張している自己の表現であると述べている。学生は、毎日記録を見てもらうことで、自分の努力について評価をして欲しいと強く望んでいる。そして毎日記録を提出し、義務を果たし

たという達成感と見てもらったという安心感が持てるようである。教員は、毎日記録から、看護の展開が妥当かどうかを評価し不足部分を示しコメントを加えることで学生が次への学習に向かえるように働きかけている。

『気にかけてくれる』では、「常に学生の事を気にかけて理解してくれた」が10件、「学生の気持ちに共感し、悩みを一緒に考えてくれた」が8件あった。学生は受け持ち患者の看護に対して問題解決をしたいと考えているが、病態把握が十分に出来ないことや、看護計画の立て方、具体的な介入方法がわからず実習を進めることを困難と感じたり、実際の看護の展開で指導者に直接尋ねたり、自分の考えを伝えられず悩みを抱えていることも多い。藤岡¹¹⁾が言うように自分で考えたり悩んだりすること以外本当の意味で学ぶことはあり得ないことであり、教員が共に考える姿勢を持ち、学生の気持ちや考えを受けとめ、学生が自分で乗り越えられるようにサポートし、自分で考えわかったと実感できるよう学生の主体性を尊重した指導を行うことが必要である。さらに学生が考え行動した結果を評価し褒めることも大切である。

『看護技術の指導』では、「一緒にケアをする等患者と関わり、アドバイスが欲しい」が10件、「看護師と連携をとってくれケアや処置にスムーズに入れた」が4件あった。学生は、1人の受け持ち患者を中心に実習しているため看護技術の経験が限られており、受け持ち患者以外の看護ケアの参加を指導者に申し出ることが苦手で、自分から機会を作ることができない。そのため教員は学生に技術経験を重ねるよう促し、機会を得られるよう指導者と連携をとることや、指導者に学生が申し出ることが出来るような支援が必要である。看護ケアでは、患者の状態に合わせて臨機応変に方法を工夫していかなければならない。その場の状況判断から柔軟な対応をすることは学生にとって難しい反面、実施出来た時には学びや看護ケアが出来たという充実感は大いと言える。

『考えさせてくれる』では、「自分で考えを出せるよう導いてくれた」が5件、「情報を関連付けて理解できた」が4件で多かった。答えを学生が導き出せるような助言、指導を学生は求めており、講義と臨地実習担当を同じ教員が行っていることは学生が実習に必要な知識を事前に学生に提示しやすく看護を考える手助けになると言える。レバドトニエら¹²⁾は、学生が自分で努力して考えていけるように、教師は質問過程での案

内者にならなければならないと述べている。教員は、学生が理解しやすいように講義の中で教材を工夫し、実習で関連付けられるような教授活動を展開することが重要であると考えられる。

『病態理解の指導』では、「疾患に目を向け様々な角度からアセスメントする指導をもらった」が6件、「関連図や診断に至る過程等の指導により病態を関連付けられた」が3件あった。学生は、目に見えることから判断、解釈するため、潜在的な問題を理解することが難しく症状や治療を少しずつでも関連付けて看護の根拠や必要性を考えられるよう、学生に情報提供し看護を考えさせることが必要である。

5. おわりに

ECTBのNo.19「より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言ってくれていますか？」の得点は指導者が3.09、教員が3.38と低いが教員の実習指導に対して学生は、考えさせてくれる、理解できるまで丁寧に時間をかけて指導してくれると感じていた。指導者や教員は学生が自分で考えわかったと実感できるようにわかりやすい文献を提示するなど指導方法を工夫し、達成感を持たせることが必要である。教員の実習指導に対し学生は「助言してくれる」と捉えており、学生は指摘されることで自分の課題に気付くことができている。指導者が学生と共に経験した場面を通して学習の方向性を示すことで、学生は、指導者の働きかけに応え実践したいという思いから学習行動がとれ看護介入へと結び付けられている。指導者の『学生への理解』の評価の平均点は、3.52で4カテゴリーの中で最も低く、学生は実習中配慮されていても緊張や不安を抱いているため、教員に精神的な支援を強く求める傾向がある。教員は指導者と連携をとり効果的な実習となるよう学生を支持し調整していくことが重要である。

6. 謝 辞

この研究にあたりアンケート調査にご協力いただきました学生の皆様へ感謝します。

7. 引用文献

- 1) 中西啓子, 影本妙子, 林千加子, 角名香代, 合田友美: Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析—第1報—, 川崎医療短期大学紀要22: 19—24, 2002.

- 2) 影本妙子, 中西啓子, 角名香代, 合田友美: Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析—第2報—, 川崎医療短期大学紀要24: 19—24, 2004.
- 3) 影本妙子, 合田友美, 大島亜由美, 中西啓子: 成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析—ECTB 評価スケールを用いて—, 川崎医療短期大学紀要28: 27—31, 2008.
- 4) 合田友美, 近藤栄律子, 影本妙子: 看護学生の臨地実習指導の評価—入学定員増加によってもたらされた変化—, 川崎医療短期大学紀要29: 19—24, 2009.
- 5) 影本妙子, 近藤栄律子, 曾谷貴子, 太田栄子, 藤堂由里, 中西啓子: 看護学生による臨地実習指導の評価—学生の特徴に焦点をあてて—, 川崎医療短期大学紀要30: 17—22, 2010.
- 6) 天ヶ瀬智子, 岡田みずほ: 教員, 指導者間の共通認識と相互理解による臨地実習の充実, HANDS-ON4(2): 36, 2009.
- 7) 安酸史子: 看護教育学, 「臨地実習における教育と学習」, グレック美鈴, 池西悦子編, 東京: 南江堂, p. 188, 2009.
- 8) 前掲書6), p. 26.
- 9) レバドトニエ, マーサ A トンプソン著, 中西睦子, 荒川唱子訳: 看護学教育のストラテジー, 東京: 医学書院, p. 164, 1993.
- 10) 中西睦子: 臨床教育論, 第1版, 東京: ゆるみ出版, p. 242, 1983.
- 11) 藤岡完治: 看護教育の方法, 「看護教育の方法」, 藤岡完治, 堀喜久子編, 第1版, 東京: 医学書院, p. 2, 2002.
- 12) 前掲書9), p. 69.